

農業と消費者を信頼で結ぶ事業をめざして

酪農のなかま

2022.
冬号
No.140



●特集 第39回全農酪農経営体験発表会開催 最優秀賞・優秀賞受賞者概要と審査講評	2
●第15回 全農学生「酪農の夢」コンクール 受賞作品紹介 受賞者座談会	7

●系統乳業紹介 酪王協同乳業株式会社	10
●日本酪農の展望 第2回 持続可能な酪農産業を目指して	12
●新商品のご案内 乳飲料「ミルクティー」	14

特集 第39回 全農酪農経営体験発表会開催

J A全農は、11月26日、東京都千代田区の日経ホールで「第39回全農酪農経営体験発表会」を開催しました。今回はコロナウイルス感染症の蔓延による中止を挟んで2年ぶりの開催となります。酪農を取り巻く環境が厳しさを増す中で日々の努力により優秀な経営成績を維持した6名の酪農家が、創意工夫あふれる先進的な経営内容を発表しました。

「第15回「酪農の夢」コンクール」授賞式も併催され、受賞作品の発表と受賞者らによる座談会が行われました。

第39回 全農酪農経営体験発表会 表彰式



最優秀賞は埼玉県・松本陽一さん・聡美さんの作品
「埼玉県狭山市『松本牧場』における総合的評価
粗飼料自給率向上が及ぼす影響～大学時代の研究を実践して15年～」が受賞

オンラインで現地から参加。さらに発表作品も事前に収録し当日はオンラインで配信しました。

厳正な審査の結果、先進技術の積極的な導入、技術水準、収益性が優れていることに加え、大学時代から研究してきた経営理念に従い、経営を改善し続けている点が高く評価され、埼玉県・松本陽一さん・聡美さんの作品「埼玉県狭山市『松本牧場』における総合的評価／粗飼料自給率向上が及ぼす影響」が最優秀賞を受賞しました。



受賞者を代表して挨拶をする松本陽一さん

す影響「大学時代の研究を実践して15年」が最優秀賞を受賞しました。受賞者の挨拶で松本さんは「うちは子供にしっかりと教育費をかけることをコンセプトにやっている牧場。今日ここに立っているのも父母のおかげ」と両親に感謝の気持ちを伝えた上で、「嵐が過ぎ去っても立っていられる酪農家であるように、日々の管理と経営に注力しながら情勢に対してアンテナを張り続けていきたい」と抱負を述べました。

優秀賞は（以下発表順）、茨城県・鈴木昇さん・ともえさん、福島県・萱森健太さん、岩手県・清水繁勝さん・文子さん、高知県・高橋悠さん・彩希さん、福岡県・藤野和有基さん・由紀さんが受賞しました。

オンライン開催で全国から参加

全農酪農経営体験発表会は、農協・経済連・全農県本部が推薦する優秀な酪農経営者を選定・表彰し、その経営内容・経営技術等の成果を広く紹介することで、酪農経営の安定・発展に役立てることを目的としています。



「発表が皆様の経営改善に役立つものになれば幸い」と全農・齊藤良樹常務

全農・齊藤良樹常務理事は開会の挨拶で、「現在、日本での新型コロナウイルスの感染状況は小康状態にあるが、世界では依然として予断を許さない状況にあるため、今回は実出席とウェブ出席を併用したハイブリッド開催とした」と今年度の開催方式の変更について説明した上で、「本日の発表が皆様の経営改善に役立つものになれば幸い」と期待を述べました。



「オンライン開催によってむしろ全国の方々に参加いただけるのでは」と小林信一審査委員長

小林信一審査委員長（静岡県立農林環境専門職大学短期大学部生産科学科教授）は、「今回、開催できたことを本当にうれしく思う。オンライン

また審査委員特別賞として2作品が選定され、OPU・IVF用施設を地域の酪農家に提供するという新しい技術普及や支援のあり方を提示した岩手県・清水さんに「先進技術普及地域貢献賞」が、カウコンフォートや従業員の労働環境改善の取組みが高く評価された福岡県の藤野さんに「人とウシにやさしい経営者賞」がそれぞれ贈られました。

受賞者された方々の牧場の様子は今後本誌ファームレポートでご紹介していきます。

学生と酪農家が同じ壇上で

酪農経営体験発表会と併せて、第15回「全農学生「酪農の夢」コンクール」の最優秀賞作品発表・表彰式が行われ、最優秀賞を受賞した茂木千波さん（北海道岩見沢農業高等学校畜産科学科3年）の作品「乳で広がる無限の可能性」が披露されました。表彰式の後、茂木千波さんほか3人の優秀賞受賞者と発表会に参加した酪農家6名により座談会を実施。「酪農の夢」の実現に向けて小澤壯行審査委



学生が夢の実現に向けて、日頃の疑問を酪農家にぶつける座談会

最後に全農・齊藤常務は、「地域実態に即した取組みによって堆肥を有効活用した自給飼料生産や先進技術を活用した有料後継牛の確保など今後の参考にしていただける発表内容であった、また夢コンにご応募いただいた学生の皆さんとご指導された先生方に感謝しつつ、夢の実現を心から願っている」と述べて、発表会を締めくくりました。



「酪農の夢」コンクール最優秀賞は岩見沢農業高校3年・茂木千波さん



発表は事前に収録された動画で

ンによってむしろ全国の方々に視聴いただけるのでは」とプラスの側面を紹介しました。また「今回はコロナ禍の新しい試みとして現地審査は酪農家・関係者の協力の下、リモートで行ったが、実際に現地に行ったような心持ちで審査させていただいた」と審査方法の変更を紹介しました。

最優秀賞は 埼玉県の松本陽一さん・聡美さん

発表作品は、全国各地から応募された作品を対象として書類審査2回、現地審査（リモート）1回により選定し、最終審査に残った6名の酪農家が、発表会当日、与えられた20分の時間の中で自らの経営概要や酪農にかける想いなどを発表します。

今回は感染防止のため出席者は発表者とその関係者のみとし、一部の方は

最優秀賞

埼玉県狭山市『松本牧場』における総合的評価

粗飼料自給率向上が及ぼす影響〜大学時代の研究を実践して15年〜

まつもと
松本

よういち
陽一さん
さとみ
聡美さん

埼玉県

経産牛：36頭
経営形態：酪農専業
労働人数：4



経営の特徴

- 都心から約40kmの狭山市で遊休農地を活用し循環型農業を実践。後継牛の自家産100%、搾乳牛の粗飼料自給率は90%を超え、都市近郊でありながら足腰の強い経営を実践。
- 大学時代に牧場経営を「経済性・エネルギー・余剰窒素・家畜の健康状態・人間の満足度」の5つの基準で総合的に評価する研究を行い、自給飼料の品質と窒素負荷、家畜の健康状態が経営に影響すると考え、粗飼料生産に力を入れている。
- 自給飼料の品質改善により就農から15年で1頭あたり年間平均乳量が約2,000kg向上。
- ゲノム検査や牛群検定を活用し、少ない飼料で効率的に産乳する牛群を目指して改良に取り組む。県と検定組合の協力を得て高能力牛導入事業を立ち上げ、北海道より5頭の優良高能力牛を検定組合に導入。受精卵技術を用い県内に高能力牛を増やす計画を立ち上げ、松本牧場に係留の牛がNTPトップ100位以内の評価を得ている。
- 県酪農教育ファーム推進委員会による「わくわくモーモースクール」並びにJAいるま野による出前授業「わくわくアグリスクール」等、酪農理解醸成活動に積極的に参加している。

全体講評

●審査委員長

小林 信一（静岡県立農林環境専門職大学短期大学部生産科学科教授）



本発表会の審査基準としては飼養管理技術水準、経営の発展性、収益性、営農と生活の調和、共同活動、地域への貢献、その他を数値で評価し、それらが総合的に高い経営を最優秀賞とすること、となっています。

今年度からは、皆様からのご意見も取り入れ各項目をさらに細分化して得点をつけ、総合評価を行うようになりました。総合的な評価であるため、酪農所得の多寡や技術水準の高さだけでなく地域や酪農界への貢献、あるいはワーク・ライフ・バランスといった点も重視しています。

「数値化＝客観的である」と考えられがちですが、立地や経営理念が異なる経営においては評価が難しい点もあります。たとえば高泌乳を必ずしも重視しない経営があるといった点です。審査においては数値を重視しながら、それだけでは評価が難しい定性的な評価も含め、作品の先進性や普及性を総合的に審査しています。今回の審査方法の見直しの議論の中で審査委員は総合的に評価することの難しさと重要さを改めて実感しました。

また今回、審査委員会のなかで、酪農家をサポートするJAなど関係機関を対象とした賞を設けたいという意見がありました。酪農家が減少を続ける中で地域の酪農家や農業の維持発展に尽くしている関係機関のご苦労は大変なことと拝察いたします。その重要性は非常に高まっており、酪農経営の支援を行うJAなど関係者に対する賞をぜひ設けていただきたいと審査員一同は考えています。

自給飼料へのこだわりと人・牛・土地のバランスを軸として持続可能な酪農を目指すという確固たる経営理念のもと、一貫した経営行動をとっている点に審査員一同感銘を受けました。

具体的には約8haの畑地を借地するなど飼料生産基盤の安定化・拡大を図り良質飼料確保に努め、乳飼比31%を達成していま

す。農地集積による循環型酪農を目指し、消臭対策など都市近郊酪農のモデルになり得る経営です。

またゲノミック評価や体型審査、生乳中脂肪酸情報の活用など高度な取組みによって個体能力の高い牛群を作り出し経産牛30頭規模で所得率26%、1千万円以上の所得を確保されていることは驚異的であります。

優秀賞・先進技術普及地域貢献賞

余暇を楽しむ、自然体、酪農〜恵まれた環境の中で〜

しみず
清水

しげかつ
繁勝さん
あやこ
文子さん

岩手県

経産牛：81頭
経営形態：乳肉複合経営
労働人数：5



経営の特徴

- 作業の効率化、軽労化を図ることでゆとりのある生活と酪農経営を両立している。
- 植樹、遮熱ベンキの塗布、トンネル換気、細霧装置による暑熱対策を講じ、年間を通じて乳量、乳質とも高い水準の牛群となっている。
- 妊娠鑑定時の雌雄判定による後継牛の計画的な確保や、OPU-IVF卵による乳牛改良、和牛生産をするなどハイレベルな繁殖管理を実践している。また、OPU-IVF卵を地域で利用するために採卵専用施設を整備する等、地域酪農への貢献度が高い。
- 牧場には地域の酪農仲間、飼料・機械メーカー等多くの関係者が訪れ、情報交換を行っている。

優秀賞・人とウシにやさしい経営者賞

「牛・人・街」にやさしい酪農
〜理想の酪農経営に向かって走り続け〜

ふじの
藤野

かずゆき
和有基さん

福岡県

経産牛：105頭
経営形態：酪農専業
労働人数：1



経営の特徴

- 地域貢献を第一に考え持続可能な酪農を追求
- ゲノミック評価とOPU-IVFの移植により、生涯生産乳量・乳質・産次数・種付回数にこだわった後継牛確保
- 自ら農協青年部や関係機関に働きかけ、福岡地域で初のコントラクター組織を設立
- 一般的な定説にとらわれない、牛と関わりながら辿り着いたカウ・コンフォートを取り入れ、牛の生産性向上を図る
- 耕種農家、農協、ホームセンターの意見を取り入れた良質な堆肥作り・販売
- 多種の未利用資源を活用したTMRでの自家配合により、栄養管理の安定化と飼料費の削減を図る

審査講評

借地19haを含む42haの農地で自給飼料生産を行い、乳飼比は30・7%と作品中最低でした。経産牛1頭あたりの乳量は1万kg近いレベルを維持しつつ、乳成分、体細胞数も良好です。また分娩間隔は安定的に短いなど繁殖成績にも優れています。

体格審査は好成績で、牛体は清潔に保たれ、牛床や繫留方式にもアイデアが盛り込まれています。

審査講評

30haの水田借地を行い、福岡県ではじめてコントラクター組織を立ち上げて飼料稲、WCSなど自給飼料生産に積極的に取り組んでいます。多様な微量資源を有効活用している点が優れています。実需者の要望に応えた堆肥製造により副産物からも収益を得ています。

ゲノム評価やOPU-IVFなど先進技術を積極的に活用するとともにカウコンフォートへの取組みやTMRセンターおよびWCS活用を評価したいと思います。また西南暖地にもかかわらず高乳量を維持されています。

優秀賞

地域の高感度な消費者と共に歩む酪農



すずき のぼる
鈴木 昇さん
茨城県

経産牛：30頭
経営形態：複合経営
労働人数：4

経営の特徴

- 「牛の健康は土づくりから」という考えのもとに酪農経営を実践。より安全・安心を追求し、化学肥料や農薬を使用しない自給飼料生産を確立している。
- 自農場の乳牛の糞尿から臭わない良質な発酵堆肥作りを行う循環型酪農を実践している。
- 牧場内の工房で生産している牛乳乳製品の販売を通して「牛が健康であれば牛乳は美味しい」ことを実感してもらい、地元のファンやリピーターを獲得している。
- 安全で安心な生乳生産を追求するため、濃厚飼料はNon-GMを基本とした自家配合を利用している。

優秀賞

新規就農で受け継いだ酪農経営と地域の絆



かやもり けんた
萱森 健太さん
福井県

経産牛：36頭
経営形態：酪農専業
労働人数：2

経営の特徴

- 第三者継承で経営移譲し、美浜町唯一の若手酪農家として「農工商連携」に取り組むなど地域活動の振興に寄与している。
- 牛舎の整頓・作業の絞り込みによって1日の実質労働時間が5～6時間と他の酪農家に比べても少なく抑えられており、無理のない酪農経営が実践できている。
- ビール粕や廃棄のポップコーンをエコフィードとして活用し、濃厚飼料のコスト削減と環境負荷の低減に努めている。

優秀賞

乳房炎ゼロへの飽くなき探求心
夫婦二人三脚で切り開く
地域と酪農の明るい未来



たかはし ゆう
高橋 悠さん
高橋 彩希さん
高知県

経産牛：80頭
経営形態：酪農専業
労働人数：4

経営の特徴

- フリーバーン牛舎では四国管内トップクラスの乳房炎の少なさを誇る
- 新たに導入した縦型コンポストで堆肥処理を行い、将来的には敷料・おがくずの購入をなくすことを目指している。
- 配偶者は酪農未経験だったが、今では朝晩の搾乳や会計事務等を担当し、夫婦で協力して酪農に取り組んでいる。また牧場の魅力をInstagram等のSNSを用いて広く情報発信し、従業員募集等につなげているほか、「高知県農村女性リーダーネットワーク」に所属し、積極的に地域農業の情報を発信している。
- 外部からの借入金はなく、無借金経営を実現

審査講評

おいしい牛乳、乳製品を追求する強いこだわりに感銘しました。六次化による消費者との直接的な交流、耕作放棄地の活用や借地約9 haでの国産コーンなどの自給飼料生産の重視、匂わない堆肥製造や有機農家のホエイの無償配布など、地域や社会を意識した経営のあり方は高く評価したい点です。消費者にこだわりの牛乳・乳製品を届けるため、多少の所得の減少や労働時間の増大を厭わないという考えに感銘する一方で、持続可能性という面からこの点は少し検討していた

審査講評

酪農家が少ない福井県で第三者継承により新規参入を果たしました。関係機関の支援を受けながら、堆肥センターやエコフィードなどを利用し労力的に余裕のある経営を展開しています。大きな投資はなく牛舎取得費用はすでに返され、経営継承時の借り入れも着実に償還するなど、堅実な経営を展開しています。クロスフリーディングの取組みなど従来にない視点で生乳生産システムを構築しようとしている点も注目されました。

審査講評

求める酪農像が、乳房炎ゼロ、という具体的目標に集約され、一貫した考え、徹底した取組みがなされています。牛歩の導入によって適期受精を実施し、種付回数を低め、自家育成率100%を維持しています。乳量水準が高く、所得率21%、2千6百万円の所得と収益性も良好です。奥様によるネットを通じた情報発信を行うなど家族の中でよく分担協力されていること、さらにボンカレーの看板や和室の欄間を牛舎に配置するなど遊び心が感じられるすてきな家族経営でした。

同時開催

第15回

全農学生「酪農の夢」コンクール



左から、福島県農業総合センター農業短期大学校・菅野泰夢さん、北海道岩見沢農業高等学校・茂木千波さん、北海道帯広農業高等学校・砂川律さん、栃木県農業大学校・糸川夏海さん

「第39回全農酪農経営体験発表会」第一部として「第15回全農学生『酪農の夢』コンクール」の受賞発表と表彰式が行われました。

今回も全国の高校・大学・大学校から多くの力作が寄せられ、酪農経営体験発表会と同じ審査委員により受賞作品を決定。当日は優秀賞以上の受賞が決まった4名に来場いただき、執筆した学生と事前に収録した各作品の冒頭部分が公開されました。

審査委員・小澤壮行先生による各作品の講評の後、最優秀作品が発表されました。厳正な審査の結果、最優秀賞に選出されたのは岩見沢農業高等学校3年・茂木千波さんの作品「乳で広がる無限の可能性」です。

改めて作品の全文が発表された後、



茂木さんの夢に大きな影響を与えた日本獣医生命科学大学・三浦先生がお祝いに駆けつけた

となった日本獣医生命科学大学食品科学科の三浦孝之准教授も駆けつけ、サプライズで花束とブラウンチーズ、お祝いのメッセージを贈りました。

表彰式の後には入賞者の皆さんと御指導の先生方、発表会に参加した6名の酪農家、さらに審査委員の小澤壮行先生も交えて座談会を行いました。座談会の模様は本誌9ページで紹介しています。

審査講評



日本獣医生命科学大学教授
小澤 壮行先生

今年是非常にレベルが高く、受賞9作品を選ぶのに本当に苦労しました。

最優秀賞

岩見沢農業高校の茂木さんはブラウンチーズの製造と利用を基軸として、大きく国際貢献へと視野を広げられています。とかく暗く語られがちな私たちの未来を明るくものとして自由に論じた作品です。

優秀賞

福島県農業総合センター農業短期大学校の菅野泰夢さんはご実家が酪農経営を営んでおられますが、東日本大震災の原発事故により経営中止を余儀なくされました。ご本人が酪農を再開することで地域の復興にもつなげたいという熱い思いに審査委員一同胸を打たれました。栃木県農業大学校の糸川夏海さんの作品はジェンダー問題を正面から捉えた非常に斬新な作品です。作

品中の「女性だからしょうがないと諦めていたのがとてもよかったことに気づきました」、まさに性別にとらわれない新しい思いがあふれた瞬間だと思います。北海道帯広農業高校の砂川律さんは非農家出身ながら一念発起して酪農を志し帯農に進学しました。酪農の魅力を自らの成長に即して実感していることが手に取るようにわかる作品です。

★最優秀賞★

乳で広がる無限の可能性
北海道岩見沢農業高等学校
畜産科学科3年 茂木 千波

★優秀賞★

私の夢
福島県農業総合センター農業短期大学校
畜産経営学科1年 菅野 泰夢
牛を愛する全ての人が
誇りを持てるように
栃木県農業大学校
畜産経営学科2年 糸川 夏海
非農家の私と酪農
北海道帯広農業高等学校
酪農科学科2年 砂川 律

★佳作★

帯広畜産大学
畜産科学課程2年 谷 夏海
鹿児島県立農業大学校
畜産学部酪農科2年 長野 楓
秋田県立西目高等学校
総合学科農業科学系2年 柴田 栞
栃木県立那須拓陽高等学校
農業経営科1年 木村 日音
富山県立中央農業高等学校
生物生産科3年 松浦 日依梨

(敬称略)

*各受賞作品は全農酪農の夢コンクールのHPでご覧いただけます(次頁のQRコードからアクセス、または「全農 酪農の夢」で検索)。



第15回 全農学生「酪農の夢」コンクール 最優秀作品

乳で広がる無限の可能性

北海道岩見沢農業高等学校
畜産科学科 3年 茂木 千波さん



私の実家は、千葉県で酪農を営んでいます。物心ついた時には牛がいて、食卓には自家製のチーズが並んでいました。中山間に位置する我が家には牛がのびのびできる放牧地も自家飼料を栽培できる十分な土地もありませんが、乳を搾る父、その生乳でチーズを作る母の姿を見てきた私は酪農家という家業に誇りを持っていました。生乳は毎日集乳車が回収してくれます。しかしチーズは売れ残ることもしばしばありました。私は、生乳を無駄なく最大限に活用した、より付加価値の高い新たな商品が求められていると考えるようになりました。そんな環境で育った私は幼い頃から酪農や

チーズやアイスクリーム、ヨーグルトなどを始めとする乳製品が大好きな私は乳加工を学ぶことができると、わくわくが止まりませんでした。「実際に製造が始まるのは7時からだけど事前の準備も見なかったら朝の集合は早いよ、起きれる？」と聞かれましたが、全ての工程を見たい私は早朝5時にはチーズ室へ行きました。工場内に張り巡らされたパイプラインで大きなタ

ンクからチーズ室に生乳を送ることから製造は始まりました。この日作るのはモッツアレラチーズとストリングチーズです。私の母も家で製造しているので、製造方法は知っていましたが使用する生乳の量も多く、機械や道具も初めて見るものばかりでとても緊張しました。生乳の殺菌、凝乳、カッティングと順調に作業は進み、次はホエイの分離です。その時、チーズパットのホエイの排出口と壁に空いている円形の小さな穴にホースが取り付けられました。よく見るとその穴は外に待機しているトラックのタンクにつながっています。質問してみると「ホエイは産業廃棄物だからちゃんと処理しないとだめなんだよ、ウチみたいに生産量多いところは処理するのも大変なんだよね」と教えてくれました。しかし、その日は朝からの大雪でタンクと室内との接続部分に雪が溜まってしまい、ホエイが上手く入っていきませんでした。ホエイの処理に時間がかかり、次の作業にも遅れが。一分一秒のわずかな時間との勝負になるチーズ製造にとって作業の遅れは製品の味に大きく影響します。また原料乳の約80%がホエイとして大量に排出される上に、固形分の50%がホエイに流失します。なのにそのホエイを処理するためにはお金がかかります。たくさんさんの飼料を食べる牛から生産される生乳なのにほとんどがホエイとして廃棄されてしまうのです。豊富なタンパク質と牛乳由来の栄養素があるのにもったいない。何てチーズは贅沢な食べ物なのだろうか、その光景がずっと忘れられませんでした。

授業で専門教科を学び、自主的な研修を通して私は乳製品だけではなく、六次産業

く、水の制約が多い地域での畜産業への比重は高いと習いました。ホエイにはタンパク質をはじめとする多くの成分が残っており、それを活用したブラウンチーズはフードロス削減だけではなく、美味しく、栄養価や保存性の高い商品の開発と飢餓に苦しむ発展途上国での利用で栄養不足人口問題に貢献できます。また、少量の摂取で多くの栄養素を手軽に補給できるため、持続可

能な開発目標であるSDGs達成に向けても重要な活動になると考えました。そんなブラウンチーズをもっと多くの人に知ってもらいたい！と、持続可能な食料システムについての議論が行われる「国連食料サミット2021」へ参加しました。畜産を学ぶ農業高校生として学校での循環型農業の実践やブラウンチーズを軸に環境に調和した農業についての意見を提言しました。内

容を考えるうえで農林水産省の方とzoom会議を行い、世界や日本の農業の現状や課題について学びました。日本からの参加者で行われた全体対話では大手企業の方や全国の農業高校生と意見を交換することができました。ブラウンチーズが多くの人へ発信され、これからの取り組みに向けて素晴らしい機会となりました。

世界では生産された3分の1、約13億トンの食料が廃棄されています。私はその解決策の一つとしてブラウンチーズを提案し、「未来の農業者」として、栄養価の高い乳を無駄なく利用する仕組みを多くの人に発信したいと考えています。どんな小さな取り組みでも、同じ目標を持った仲間が多くなれば世界はきっと変わると信じています。

◆なぜ就農したり、後を継ごうという思いになったのですか。

(岩見沢農業高校・茂木 千波さん)

●夫は幼い頃からずっとぶれずに酪農家になるという気持ちを持ち続けてそのまま就農しました。酪農学園大学に進学した時には周りよりも経験している分強みがあると思ったようで、今まで積み重ねてきたものを活かすという上でも、これからは酪農の仕事をやっていくと考えたそうです。

(高知県・高橋 彩希さん)

◆私は自給飼料生産をしたいと考えています。そのために学んだ方がいいことや覚えておいた方がいいことはありますか。

(福島県農業総合センター 農業短期大学校・菅野 泰夢さん)

●自給飼料はその土地によって適正なもの、育ち方が全く違って、北海道で実習した技術を福島でそのまま落とし込めるということはありません。自分が立つ場所を決めているのであればそこをもとに考えることが必要です。

(埼玉県・松本 陽一さん)

●考え方がすごく大事です。私は、農業とは意義のある仕事だ、と知って酪農をはじめました。消費者が喜ぶおいしい牛乳は健康な牛から、健康に飼うにはいい餌、いい餌を作るにはいい牧草……と考える基点になったんですね。考え方が変わるとものの見方が変わるし、次の行動も変わっていく。それを大事にしてほしいと思います。

(茨城県・鈴木 昇さん)

◆女性とよりよい関係性をもつ一緒に酪農経営をするためにはどんなことが必要だと思いますか。

(栃木県農業大学校・糸川 夏海さん)

●私の牧場では外国人研修生も含め従業員はすべて女性です。男性にしかできないという仕事はほぼありません。失敗してもそれも経験です。できないことがあるならできるように、もてないものがあるなら機械



で解決する、そのための資格をとる、そういう考え方でいいのではないのでしょうか。

(福岡県・藤野 和有基さん)

◆酪農のやり方は農家ごとにいろいろあってそれぞれが正解だと思います。自分にあつた酪農を見つけるために何をすればいいでしょうか。

(帯広農業高校・砂川 律さん)

●自分自身も酪農家になることが目標で、独立した後はどうしたらいいんだろう、と思っていました。好きな酪農を目指していけばなんとなくわかってくるので、悩む必要はないと思います。

(福井県・宣森 健太さん)

●私の場合、はじめは子育てで時間がなかったのですが、コッソツと使いやすい牛舎にしたり、機械を導入したり、いろいろ工夫をしました。日々の生活と酪農経営のバランスを大事にしてきたことが、自分にあつた、趣味を楽しむ経営に繋がったと思います。

(石川県・清水 繁勝さん)

一杯をつなぐ私たちのなかま

系統乳業紹介 ● 酪王協同乳業株式会社

震災から10年の歳月を乗り越え、酪農家と消費者を繋ぐ架け橋となる企業をめざして

酪農家とともに

2021年10月1日、「私たちは、酪農家が育んだ自然の恵みを活かして、安全で新鮮な美味しい牛乳・乳製品を消費者へお届けするとともに、酪農家の営農に貢献し、豊かな社会づくりや環境保全に取り組み、地域から支持される企業を目指します。」の理念のもと、共に福島県を地盤にもつ、総合農



合併を記念して制作されたベコとダルマ



本社工場風景（福島県本宮市）



郡山工場風景（福島県郡山市）

協系である東北協同乳業株式会社と専門農協系の酪王乳業株式会社が新設合併にて「酪王協同乳業株式会社」としてスタートしました。

旧東北協同乳業（福島県本宮市）は本社工場として機能し、主に牛乳・発酵乳・プリン製造を行き年間の集乳量・2万2000トンを持続します。旧酪王乳業（福島県郡山市）は郡山工

場として稼働し、主に牛乳・乳飲料・発酵乳の製造を行き年間の集乳量・1万9000トンを持続し、両工場が集乳および製品製造を行っていきます。

この合併により福島県内の学乳供給割合が8割を占めることとなります。多くの子供たちの成長に欠かせない食品を供給するという使命を全うするとともに、安心安全でおいしい商品を一



酪王協同乳業 商品ラインナップ



今年で45周年を迎える酪王乳業のロングセラー商品「酪王カフェオレ」

大に活かせる商品の開発が始まりました。

合併当初、「酪王カフェオレ」がなくなってしまうのでは？と酪王カフェオレファンから心配の声が数多く寄せられていました。そのような心配を払拭するべく酪王カフェオレは今後も継続し、尚且つ、「酪王カフェオレ」を長年守り続けてきたスタッフのもと、こだわりぬき作りあげた商品として「酪王カフェオレプリン」の開発をすすめ、2021年11月1日に発売（一部の量販店にて10月25日より先行発売）することとなりました。



酪王カフェオレのこだわりを継承したファンも納得の「酪王カフェオレプリン」

ことで酪王カフェオレのコクを再現しました。また旧東北協同乳業が蓄積してきたデザートづくりのノウハウを駆使し卵黄などの原料を独自に調整することで、くちどけ滑らかな食感に仕上がりました。味と香りは、酪王カフェオレのファンも納得していただける自信があります。

大変うれしいことに発売当初から大人気で、一時、製造・出荷を制限させていただくこともございました。より多くのお客様が手にしていただけるよう11月22日（月）より、JAタウン（ネットショップ）での販売も開始しています。

今後の取り組み

風評被害の払拭を待つのではなく、酪王協同乳業の販路拡大を通じて消費

人でも多くのお客様に手にしていただけるよう努めてまいります。

総合農協系と専門農協系の乳業メーカーが一緒に

両社において生乳の高付加価値化など同じ目的に沿い生産活動を行ってききました。競い合うことで高みを目指すのも一つの方法ではありませんが、近い将来の人口動向や経済状況の先行きを見据え、合併への協議が持たれたのが新会社設立から10年ほど前でした。そんな矢先の2011年3月に東日本大震災と原発事故が発生しました。両社による原発事故の影響や風評被害からの懸念を立て直しにより落ち着きを取り戻した2019年に、事業再編の検討を再開しました。

総合農協系と専門農協系が一緒になるのは全国でも極めて珍しいことでした。しかし、東日本大震災以降、風評



主力ブランド商品

者に福島県産の食品が安全・安心だという認識を広めていきたいと考えております。そうした思いから、集乳の際の放射能検査は現在も継続しています。

福島はおいしい水・おいしい米・おいしい果物の産地として広く知られてきた地域であり、酪農においても豊かな自然を背景に発展し、私たち乳業メーカーも事業を展開してきました。

これまでと同様に、生乳をよりおいしく皆様の食卓へお届けできるよう技術を磨き、そして会社がかかえるビジョン（めざす姿）にある、「酪農家と消費者の懸け橋として、地域の酪農振興と、地域の人々の健康的な食生活に貢献する乳業会社」をめざし社員一同、心を一つに努めてまいります。旧来からのお取引様におかれましても、引き続き変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

● 酪王協同乳業株式会社

本社：福島県本宮市荒井字下原14

・代表取締役社長 鈴木伸洋

【会社概要】

・設立：2021年10月1日

・資本金：9,000万円

・従業員：227人

持続可能な酪農産業を目指して

社会のニーズに応え
酪農乳業の信頼と価値を維持する

一般社団法人Jミルク 生産流通グループ 関 芳和

世界の酪農乳業関係者が目指す
SDGsの取組み

持続可能な酪農産業に向けた取り組みを3回に分けてご紹介しています。前回は、最近話題となっているSDGsと酪農乳業のかかわりや、持続可能な取り組みが世界の政策に反映されてきていること、日本においても農林水産省が「みどりの食料システム戦略」を策定し温室効果ガス削減など環境に配慮した政策が示されたこと、などをご紹介しました。

今回は、酪農乳業におけるSDGsの取組みとして、世界の酪農団体である国際酪農連盟（IDF）が採択した2016年の「ロッテルダム宣言」を起点に、世界の酪農乳業関係者が目指している取り組みと海外の事例、国内では何を実行しようとしているのかをご紹介します。

ロッテルダム宣言に対応した
各国の取組み事例

ロッテルダム宣言では、増え続ける人口に対して酪農がどのような持続可能な方法で食糧供給できるのか指針が提案され、日本を含む多くの国の酪農乳業界がこれに署名しています（世界各国の合意内容は表1の通り）。社会・経済・健康・環境の各分野に配慮し、持続可能な取り組みを推進するための

ガイドラインの策定、利害関係者との合意形成、進捗確認、継続的な対話などを行うこととしています。

すでに、アメリカやオーストラリア、フランスなどでは酪農乳業関係者が一体となった取組みが進められています（表2）。例えば、アメリカでは、全国の生乳生産量の60%以上を取り扱う生産者・乳業者等で組織されたUSイノベーションセンターが「スチュワードシップコミットメント」と題した取り組みを進めています。このコミットメントは、2050年までの目標を立て、温室効

表1 ロッテルダム宣言における合意事項

- ①社会、経済、健康、環境の各分野に配慮しながら、持続可能な酪農生産体制を促進する統合的な取組を進める。
- ②家族経営の生産者や小自作農、牧畜家のニーズに配慮する。
- ③酪農乳業界における持続可能な取り組みを特定するとともに、取り組みを促進するためのツールやガイドラインの策定、実施、普及に努める。
- ④持続可能な取り組みを支援し、実現に向けた環境づくりの機能強化に努める。
- ⑤持続可能性の実現に向けた取り組み成果の測定と報告を行う。
- ⑥利害関係者との合意形成、進捗確認、継続的な改善に向けた対話を強化する。

表2 海外の持続可能な取り組みの事例

	スチュワードシップコミットメント（2020-）〔Innovation Center for U.S. Dairy〕 酪農乳業全体で持続可能性のリーダーシップを推進するため、利害関係者が連携した自主的な取組み。環境や家畜使用など重要な分野で行動を整合させ定量化。2050年までにカーボンニュートラルもしくはそれ以上。水のリサイクルを最大化しながら使用量を最適化。堆肥と養分利用を最適化し水質を改善。
	Australian Dairy Plan（2020-2025）〔4つの酪農乳業関係団体〕 4つの酪農関係組織が協力して優先課題を備えた計画を策定。業界の構造を改革し、業界としてのつながりを高め研究開発やサービス投資の際の透明しえのある優先順位と戦略的意思決定の確保など5つのコミットメントを策定。経済・健康・最適な飼養・環境負荷などサステイナビリティも位置付けられている。
	France Terre de Lait「ミルクの大地：フランス」（2018-2023）〔Cniel〕 社会経済（セクター毎の働きがい）、食品衛生（消費者の信頼性確保）、責任ある生産（アニマルウェルフェアと環境保全）、食品パフォーマンス（責任ある消費に貢献）といった4つの軸と8つの取り組みで2025年に達成すべき目標を作成。
	Origin Green「オリジン・グリーン」（2012- ）〔Bord Bia〕 アイルランドの食品と飲料の持続可能性プログラム。農家から食品製造業者、小売業者、外食産業まで持続可能な食品生産という目標をもって活動。畜産酪農の民間団体に限らず、政府の農業・食料・海産省や食品安全局、環境保護庁や環境保護庁、研究機関などの協力によるプログラムを実装している。

果ガスの削減、水使用量の最適化、施肥の最適化による水質改善を掲げ2020年から活動を開始しています。オーストラリアでは、4つの酪農乳業団体が連携して「オーストラリアンデイリープラン」を策定しています。2030年までを目標として、酪農経営の持続可能性と所得の向上、安全の

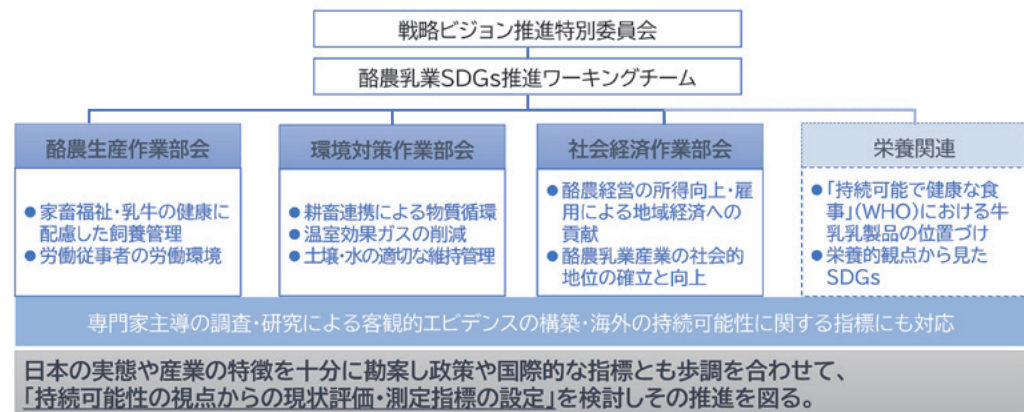
確保と健康への貢献、家畜への適切な飼養環境の提供、環境負荷の低減をテーマとした4つのコミットメントを策定し、毎年リポートを公表し進捗状況が報告されています。

ヨーロッパでは、乳業事業を行っている酪農協で、生産者が行う飼養管理や安全性、動物福祉、環境負荷の軽減などの持続可能な取り組みに対してインセンティブとなるボーナス乳価（1kgあたり10銭から2・5円程度）を支払う仕組みが構築されているところもあります。市場価格に反映されている取組み（放牧など）は、ボーナス乳価の原資となっている場合もあります。市場で認められる、すなわち持続可能な取り組みの価値が消費者から支持されるには、酪農生産から商品になるまでの過程を検証し、継続的な改善活動が重要になってくるものと思われま

「戦略ビジョン」の策定と
達成に向けての仕組み作り

日本においては、こうした国際的な動向を踏まえながら、Jミルクでは2018年から国内酪農乳業の持続可能性について検討を開始しています。2019年10月に酪農乳業の将来世代に展望ある持続可能な産業を受け渡すべき姿や連携して取り組む戦略視点、求められる協同行動などの方向性を明

表3 Jミルクにおける検討プロジェクトの概要



*詳細はJミルクウェブサイト
<https://www.j-milk.jp/news/teigen2020.html>

つの戦略視点で今後酪農乳業が協働で取り組むべき29の行動計画を関係者として一体的に推進しています。

具体的には、酪農生産・環境対策・社会経済・栄養をテーマ（表3）の検討を進めるため、酪農乳業SDGs推進ワーキングチームを設置し、2021年度から専門家・酪農乳業者の協力を得ながら本格的な検討を開始したところです。

当面は、国内における課題の抽出と酪農乳業における実態把握について進め、酪農乳業における行動指針（ガイドライン）の作成に向けた検討を進める予定です。ガイドラインは、政策や国際的な指標のほか、日本の酪農乳業の地域や生産方法などの特徴、取り組みの検証方法と継続的な改善ができる仕組みづくりなども考慮しながら策定する必要があります。こうしたガイドラインを導入したモデルの実践事例を作り関係者の協力を得ながら、2025年の全国的な取組み開始を目指しています。

各国でさらに進むSDGs
日本酪農が目指すべき方向は？

こうした持続可能な取り組みが進められてきているなか、2021年はSDGsをさらに飛躍させる10年として食料システム・環境をめぐる国際会議が続いて開催されています。2021年9月に国連が初めてニューヨークで

開催した「食料システムサミット」では、加盟国からそれぞれの国での取り組みについて声明が出されるなど、世界レベルで持続可能な食料システムの構築の流れが動きだしています（我が国では農林水産省のみどりの食料システム戦略など）。また、10月下旬からは英国グラスゴーで国連の気候変動に関する国際会議「COP26」が開催され、異常気象など気候変動による悪影響を最小限に抑えるために、産業革命前からの気温上昇幅を1・5℃に抑える努力をすべきとしたパリ協定（2015年採択）について議論が進められました。畜産酪農に関するものとしては、EUやアメリカのほか日本を含む103カ国が参加し、2030年までに温室効果ガスのメタンを30%削減に向けた枠組みも構築されました。

持続可能な食料システムや環境への対応は、社会のニーズが酪農乳業における対応の速度を上回ってしまうと、信頼を損ね産業の価値を失墜させることも考えられます。こうした社会のニーズの変化に対して国内では具体的にどのようなことを行っていけば良いのでしょうか。今回は、消費者が考える持続可能な取り組みの特徴などから、日本の酪農乳業が目指す持続可能な産業や価値を考えていきたいと思います。

乳飲料「ミルクティー」～飲用向け需要が減少する冬に、飲んで酪農家を応援！～

商品開発の目的

- 現在、生乳生産量は、前年比約102%と3年連続増産となる見込みです。一方、生乳需要は低迷しており、学校給食牛乳がなくなる年末年始・年度末の需給状況は、例年にない緩和が見込まれています。
- 全農酪農部では大手飲料メーカー向けに、缶コーヒーなどの原料に使用される殺菌乳（業務用牛乳）を販売しております。殺菌乳事業は、飲用向け需要を創出することで生産者の手取向上に貢献しています。
- そこで、飲用需要が落ち込む年末年始の不要期に合わせ、全農酪農部が自ら殺菌乳を使用したミルクティーを製造・販売することで、不要期である冬場の飲用需要を喚起します。

製品情報

種類別名称	乳飲料
商品名	ミルクティー
無脂乳固形分	4.20%
乳脂肪分	1.80%
原材料名	牛乳（国内製造）、砂糖、紅茶/乳化剤、香料、セルロース
賞味期限	9か月（容器上部に記載）
内容量	275g
ケース入数	24本

酪農豆知識

※飲用向け生乳イメージ

牛乳の需要アップを！

寒くなると牛乳の需要が減ってしまう…

冬の需要を
おいしく
支えたい!!
という気持ちで
開発しました。

春 夏 秋 冬

箱根山麓紅茶

※取扱い注意事項

※本品についてはコールド品です
※保冷はお控えください
※過熱についてもお控えください

栄養成分表示（100g 当たり）	
エネルギー	62kcal
たんぱく質	1.7 g
脂質	2.0 g
炭水化物	9.3 g
食塩相当量	0.11 g

商品の購入方法

■JAタウン「酪市酪座」

・¥3,900 1ケース（24本入り、送料・税込み）

※次回使える500円クーポン付き！（酪市酪座or酪王協同乳業）

【酪市酪座HP】

【問合せ先】
全農酪農部
03-6271-8268

牛乳の需要アップを！

寒くなると牛乳の需要が減ってしまう…

冬の需要を
おいしく
支えたい!!
という気持ちで
開発しました。

春 夏 秋 冬

●特集ページ

年末年始も、一杯の牛乳を

（2021/12/1）年末年始特集

～コロナ禍2年目の冬の牛乳事情について～

を全国域で調整しています。

また、牛乳やバター、脱脂粉乳といった乳製品の食品・飲料メーカーなどへの販売を通じて需要拡大にも取り組んでいます。その中でも、缶コーヒーなどの原料に使用される業務用牛乳（殺菌乳）を飲料メーカーに販売する殺菌乳事業は、牛乳の需要を拡大し生産者の所得向上（生乳は用途によって

価格が異なり、牛乳などの飲用向けが最も高い価格で取引される）に貢献しています。

**低迷する需要を喚起し
日本酪農を応援したい**

缶コーヒーをはじめとして、業務用牛乳を使用する清涼飲料市場も、例外

なく新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けており、外出自粛や在宅勤務の拡大によるオフィス需要の減少に伴い市場が低迷しております。

JA全農酪農部では、牛乳の需要を拡大することで「日本の酪農を応援していきたい」という想いから、自ら牛乳をたっぷり（50%以上使用）使ったミルクティーの開発と販売を行うに至りました。

3年連続増産の一方で需要は緩和

現在、生乳生産量は、酪農家をはじめ関係者の皆様の努力により順調に推移し、2021年度も前年比102%と3年連続の増産となる見込みです。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、生乳需要は期待通り回復せず、このままの消費の低迷が続くと学校給食牛乳がなくなる年末年始・年度末の需給状況は、例年になく緩和する見込みとなっております。JA全農酪農部では、年末年始における牛乳の事情を分かりやすく解説する特集ページを開設しています。

全農 JA全農酪農部

酪農応援「ミルクティー」のご案内

飲んで日本の酪農を応援！

R3年12/1発売

側面

牛乳の消費喚起！

牛乳50%以上使用

ミルクティー

種類別乳飲料

◆商品の特徴◆

- ★牛乳を50%以上使用
- ★「箱根山麓紅茶」を使用
- ★JAタウン「酪市酪座」1ケース（24本）3,900円（送料・税込み）、500円クーポン※付き

※「酪市酪座」or「酪王協同乳業」ショップで使用可能

●酪市酪座

●ミルクティー商品紹介

R3年12月発売！

商品情報 ミルクティー 缶275g

寒い冬のほっこりタイムに

**生産者の所得向上に
貢献する殺菌乳事業**

JA全農酪農部は、消費者のみならずの食卓に、新鮮でおいしい牛乳や乳製品を安定してお届けするために、毎日牧場で搾られる生乳の需給バランス

「箱根山麓紅茶」。箱根山麓一帯で生産された緑茶品種茶葉を原料とする紅茶で苦みが少ないことが特徴

**牛乳を50%以上使用した
贅沢なミルクティー**

牛乳を50%以上と贅沢に使用。茶葉には神奈川県産「箱根山麓紅茶」を使用し、ミルクのコクと、紅茶の爽やかな香りの絶妙なバランスが味わえます。

箱根山麓をはじめとする神奈川県西部地域で生産される「箱根山麓紅茶」は、苦みが少なくマイルドな口当たりで、ほんのりと薫る紅茶特有の香りが特徴です。

新商品のご案内

乳飲料「ミルクティー」

飲用向け需要が減少する冬に、
飲んで酪農家を応援！

今日もあなたに、一杯のエールを。

サダメ、いかに過ぎたでしょうか。
昨年、世の中が大きなことになって
もう一年以上が過ぎましたね。

学校が休校し、飲食店も休業し、
牛乳が行き場を失ったときには、
日本中のみなさんの応援に助けられました。

ステイホームのなかでも、
牛乳を手にとって、飲んでくれたこと。
私たちはうれしです。

すべてが収まるまでには、
まだ時間がかかりそうです。
どうか、お身体大切に。

変わっていく日常のなかでも、
変わらないおいしさと安さを。
今日も、あなたへ。

牛乳には、
人を元気にするチカラがあると信じて、
酪農家から心を込めて、
一杯のエールを送ります。

この国の牧場より



いつもあなたのそばに、牛乳。

全農

